

岐阜県方式のトマト養液栽培で発生する根腐病および立枯病 対策技術の確立

- 実施期間：令和6～8年度
- 担当部署：病理昆虫部、中山間農業研究所施設園芸部
- 区分：地域密着型研究・県単

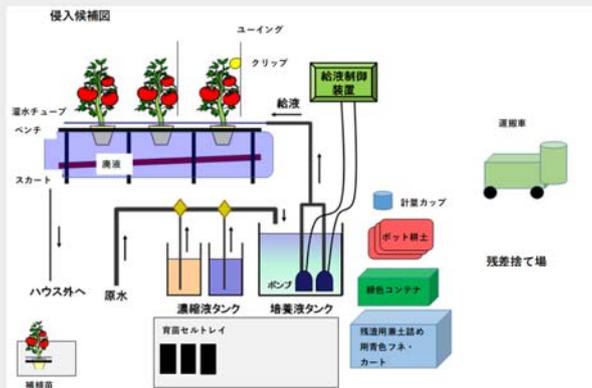
○研究内容

県内のトマト産地では、栽培労力の軽減、多収化および土壌病害回避を目的に冬春作型の独立ポット耕、夏秋作型の3Sシステムといった固形培地耕栽培の栽培面積が増加しています。

これらの導入施設では近年、夏秋作型ではトマト根腐病の発生が、冬春作型ではトマト根腐病、立枯病の発生が問題となっており、どちらの病気も生育不良、萎れ症状を引き起こすため、減収要因となります。そこで、これら原因菌の侵入経路を明らかにするとともに有効な対策技術を確立します。

開発する技術

① トマト根腐病、立枯病の侵入経路の解明



- ・PCRや培地分離等による病原菌の検出
- ・増殖時期の特定

② トマト根腐病、立枯病の有効な対策技術の開発



- ・侵入阻止検討
- ・発病抑制条件検討
- ・発病抑制資材（農薬、BS）検討

③ カーバムナトリウム塩液剤等による培土、ハウス内資材消毒技術の開発

栽培終了時に希釈薬剤を灌水チューブで流す方法と燻蒸処理専用土を詰めたトロ箱に薬剤を入れてハウス燻蒸する方法を組み合わせることでトマト根腐病が残った培土の消毒が可能に。



- ・土壌連用が可能に
- ・ハウス全体の栽培資材を消毒
- ・ハウス燻蒸処理は農薬登録中
- ・トマト立枯病への効果不明

- ・トマト立枯病への効果検証
- ・農薬登録前に生産者ができる培土消毒方法の検討

新栽培システムにおける安定生産を実現！